

Office 365を活用した市役所職員のワークスタイル変革 コミュニケーション基盤をA10 Thunder ADCが強化

顧客名：

南アルプス市

業種：

自治体

A10のソリューション：

A10 Thunder 1030S ADC

課題：

- PBXの保守サポート終了に伴う電話ネットワークの刷新
- メールへの依存と職員間のコミュニケーションの過疎化
- 従来型の電話システムでは大型装置や高価な電話機の導入が必要

導入効果：

- Office 365を活用した新しいコミュニケーション基盤の導入
- 職員のコミュニケーション活性化とワークスタイル変革
- ADCの導入により重要インフラの安定運用を実現

“ コミュニケーションの質を高める新しい環境を、
安定したネットワーク基盤で構築することができました ”

南アルプス市
総務部管財契約課
主査 塚原 賢氏



山梨県西部に位置し、国内第2位の標高を誇る北岳をはじめとした南アルプスの名峰を臨む、南アルプス市。その市庁舎では、これまで利用してきたPBX（構内交換機）の保守切れに伴いコミュニケーション基盤の刷新を計画。コミュニケーションの活性化とワークスタイル変革につながる環境作りを目指し、「Skype for Business（旧称：Lync）」を導入しています。Skype for Businessの呼制御サーバーや、クラウドサービス「Office 365」の認証基盤の負荷分散装置として、A10 ネットワークスが提供する次世代アプリケーションデリバリーコントローラー「A10 Thunder® ADC」が採用されています。

課題：職員のコミュニケーション活性化を目指したインフラの刷新

中巨摩郡にある6つの町村が2003年に合併して誕生した南アルプス市。甲府盆地の西部に位置する同市は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としてユネスコが承認している「ユネスコパーク」エリア内にあり、北岳をはじめとした3000m峰が連なる南アルプスの大自然が広がる日本有数の山岳エリアを備えています。

そんな南アルプス市では、合併したときに各支所との間をつなぐ内線電話網をIP電話によって整備し、運用を続けてきましたが、2015年に既存PBXの保守サポート期限を迎え電話ネットワークの見直しの必要に迫られていました。また、各部署がメールを中心とした連絡手段に頼り過ぎてしまうなど、意思疎通が過疎化する課題も顕在化していました。そこで、職員同士のコミュニケーションを活性化させるためにも、庁舎内のコミュニケーション基盤全体を刷新することになりました。「当時は新しい市役所庁舎の建設計画も持ち上がっていたこともあり、できれば手間なく移行しやすい環境に整備しようと考えました」と南アルプス市役所 総務部管財契約課 主査 塚原 賢氏は当時を振り返ります。そこで注目したのが、マイクロソフトが提供するユニファイドコミュニケーション（UC）サービス「Skype for Business」です。

検証：導入実績やSkype for Business環境での機能試験が安心材料に

新たなコミュニケーション基盤を検討する中で前提となったのが、PC上にインストールされたソフトフォンによる電話ネットワークの構築でした。外線を含めたすべての電話をSkype for Businessで構築するのは自治体としても先進的な取り組みであり、大きなチャレンジになりました。「運搬するだけでも苦労する大型PBXや1万台万円もする固定電話機を導入するのではなく、可能な限り“持たない”インフラの導入を考えました。そこでソフトフォンを中心としたコミュニケーションネットワークの刷新を入札要件として掲げたのです」と塚原氏。



南アルプス市役所
総務部 管財契約課
主査 塚原 賢氏



南アルプス市役所
総務部 管財契約課
副主査 飯野 慎太郎氏



岡田電機株式会社
第3営業部
部長 齊藤 清氏



株式会社YSK e-com
ネットワーク事業部
ソリューション部
課長 石原 旭氏

複数企業が入札に参加する中で選択されたのが、以前から南アルプス市のインターネット部分の運用保守を手掛ける株式会社YSK e-comと、外線部分のボイスゲートウェイや各種ネットワーク機器の提供から技術支援を行う岡田電機株式会社でした。「当初はSkype for Business単独の利用を予定していましたが、今後も長くお使いいただけるよう、将来的な用途拡大に対応できる環境作りを行いました」と株式会社YSK e-com ネットワーク事業部ソリューション部 課長 石原 旭氏は語ります。

岡田電機株式会社 第3営業部 部長 齊藤 清氏は、「A10 ネットワークスとは以前からお付き合いがあり他のお客様への納入実績があっただけでなく、我々のパートナーがSkype for BusinessとA10 Thunder ADCによる試験を終え良い評価が出たタイミングでしたので、サポート体制を含め自信をもって提案することができました」と言います。このような提案が評価され、同市の電話ネットワークの安定稼働を支援する基盤としてA10 Thunder ADCの採用が決定しました。

ソリューション：A10 Thunder ADCによるサーバー群の可用性向上とWebアクセス高速化

A10 Thunder ADCは、アプリケーションの高速化や可用性の向上を実現しながら、WAF (Webアプリケーションファイアウォール)や、DDoS防御など高度なセキュリティ機能を実装した次世代アプリケーションデリバリーコントローラー (ADC)です。

南アルプス市では、当初Skype for Business単独の利用を予定していましたが、さまざまな手段を用いてコミュニケーションが図れるよう、クラウドサービスOffice 365全体を利用し環境を整備することになりました。現在、メールシステムやスケジュール管理、設備予約としてExchange Onlineを、庁内インフォメーションとしてYammerを利用してしています。

この新しいコミュニケーション基盤で、A10 Thunder ADCは、内線電話の呼制御を行う3台のフロントエンドサーバーの負荷分散に加え、Office 365との接続に不可欠な認証基盤であるADFSサーバーの負荷分散やWebアクセス時のリバースプロキシとして導入されています。2台のA10 Thunder 1030S ADCがアクティブ・スタンバイの冗長構成で稼働しており、Webアクセス時のSSL処理を高速化する役割も担っています。

A10 Thunder ADCは、独自OS「ACOS* Harmonyプラットフォーム」の持つ共有メモリアーキテクチャーにより高いパフォーマンスを発揮し、大量のセッション処理が必要となるOffice 365においてもトラフィックの負荷を解消、快適な利用環境を実現することが可能です。 *Advanced Core Operating System

導入効果：新しいコミュニケーション基盤の安定稼働を下支え

現在、南アルプス市では、市庁舎で働く850名あまりの職員がSkype for Businessを電話として利用しており、ボイスゲートウェイを設置することで内線電話だけでなく外線電話もすべてソフトフォンに集約しています。また、座席表から相手のプレゼンス状態が確認でき、そこから直接電話やメールが可能な仕組みを用意することで、ソフトフォンの操作に不慣れな職員でも悩むことなく確実に電話できる仕組みを実現しています。塚原氏は「内線電話の利用が活性化することで、コミュニケーションの質を高めることができました。また、ソフトフォンに切り替えたことで、人事異動や座席移動など環境変化にも負担なく対応できるようになりました。」と評価します。

このように、同市にとって止めることができない重要なインフラとなったOffice 365を支えているのがA10 Thunder ADCです。A10 Thunder ADCの実現する高いパフォーマンスによってOffice 365は安定稼働しており、日本語に対応したWeb GUIによる操作もわかりやすいと評価されています。

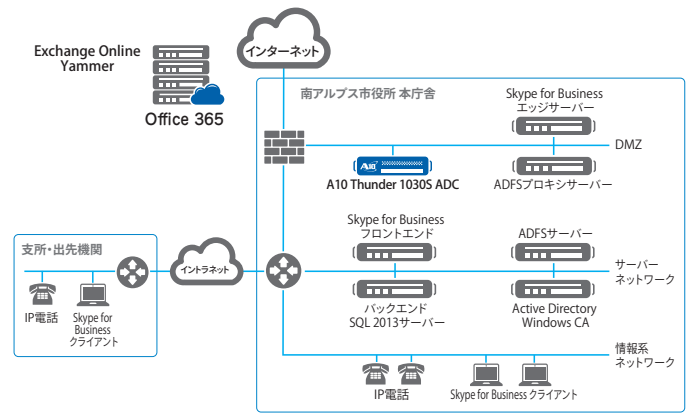


図1：Office 365 および Skype for Business を構成するサーバー群の負荷分散機能やリバースプロキシ機能をThunder ADCが提供

ます。「GUIだけで設定が可能だけでなく、Skype for Business環境でA10 Thunder ADCを活用するための構築ガイドなどの技術資料も用意されています。日本語で書かれた手順書が設定、運用に役立っています」と齊藤氏は語っています。

今後の展開：高品質な住民サービスを実現するインフラ整備に向けて

今後については、「まだOffice 365の機能をフルに活用しきれていません。せっかく手に入れた環境ですので、ワークスタイル変革につながるよう有効活用していきたい」と南アルプス市役所 同課 副主査 飯野氏は語ります。Skype for Businessはスマートフォンからも活用できるため、同市ではBYOD化を進め、土木部署などで現場にいる職員もスマートフォンから内線電話がかけられるような環境を整えていく計画を立てています。また、市内に点在する支所にテレビ電話を設置して住民からの問い合わせや相談に本庁舎の専門職員が直接対応したり、議会議中のインフラとして利用するなど、Office 365を高品質な住民サービスの提供につなげていく予定です。

A10 Thunder ADCに関しては、活用が広がるOffice 365の安定稼働に引き続き信頼を寄せつつ、次のシステム更改時には仮想環境での負荷分散を可能にする「A10 vThunder® ADC」にも期待していると齊藤氏は語っています。職員同士のコミュニケーション活性化に大きく貢献しているA10 Thunder ADC。これからは地域住民とのコミュニケーションの質を高めていく活動を支えることを期待されています。

A10 Networks / A10 ネットワークス株式会社について

A10 Networks (NYSE: ATEN)はアプリケーションネットワークングおよびセキュリティ分野におけるリーダーとして、高性能なアプリケーションネットワークングソリューション群を提供し、お客様のデータセンターにおいて、アプリケーションとネットワークを高速化し可用性と安全性を確保しています。A10 Networksは2004年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼに本拠地を置き、世界各国の拠点からお客様をサポートしています。

A10 ネットワークス株式会社はA10 Networksの日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークングソリューションをご提供することを使命としています。

詳しくはホームページをご覧ください。

www.a10networks.co.jp

Facebook : <http://www.facebook.com/A10networksjapan>

A10 ネットワークス株式会社

〒105-0001
東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル 16階
TEL : 03-5777-1995
FAX: 03-5777-1997
jinfo@a10networks.com
www.a10networks.co.jp

Part Number : A10-CS-cityminami-alps-JA-01
June 2016

海外拠点

北米 (A10 Networks 本社)
sales@a10networks.com

ヨーロッパ
emea_sales@a10networks.com

南米
latam_sales@a10networks.com

中国
china_sales@a10networks.com

香港
HongKong@a10networks.com

台湾
taiwan@a10networks.com

韓国
korea@a10networks.com

南アジア
SouthAsia@a10networks.com

オーストラリア/ニュージーランド
anz_sales@a10networks.com

お客様のビジネスを強化するA10のアプリケーションサービスゲートウェイ、Thunderの詳細は、A10 ネットワークスのWebサイトwww.a10networks.co.jpをご覧ください。A10の営業担当者にご連絡ください。